



## 新年のごあいさつ

茨城県知事  
茨城県統計協会総裁  
橋本 昌

新年あけましておめでとうございます。

2000年代の幕が開きましたが、皆様には、すがすがしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。昨年を振り返ってみますと、我が国原子力利用史上初の臨界事故という極めて遺憾な出来事もありましたが、一方で、県人口の300万人到達、新県庁舎やつくば国際会議場のオープン、常陸那珂港での国内定期航路の開設など、本県にとりまして、明るい話題も多くありました。

郷土茨城を輝かしい21世紀へと一層発展させていくため、本年も「愛されるいばらきづくり」に全力で取り組んでまいりたい決意でございます。

まず、介護保険制度の円滑な導入、保育所の延長保育や私立幼稚園の預かり保育の推進など、本格的な少子・高齢社会への備えや、生活環境の整備、学校教育や生涯学習の充実、芸術・文化の振興などに力を注いでまいります。

また、緊急雇用対策等を通じて産業の活性化を図るとともに、北関東自動車道等の3本の高速道路の整備、百里飛行場の民間共用化の推進、常陸那珂港等の重要港湾や常磐新線の建設といった陸・海・空の交通ネットワークなどの発展基盤の整備を引き続き進めてまいります。

さらに、県財政がこれまでにない厳しい状況にありますので、全力で行財政改革を推進し、地方分権の時代にふさわしい簡素で効率的な行財政システムの確立に努めてまいりますほか、今後の新たな県政運営の指針を示すため、長期総合計画の見直しを進めてまいります。

これらの施策を総合的に推進し、21世紀の新しい茨城、躍進する茨城の実現のため、全力で取り組んでまいります。そのためには、的確な現状把握と将来予測が不可欠であり、正確かつ迅速な統計情報の提供がますます重要になっております。

一方で、統計調査を取り巻く環境は、プライバシー意識の高揚などにより年々厳しくなっております。今年、我が国の最も基礎的な統計調査である国勢調査の実施年でもありますので、県といたしましては、統計の有用性を広くアピールし、県民の皆様のご理解とご協力が得られるよう努めてまいります。

また、「統計は利用から始まる」と言われるように、利活用の拡大を図ることが重要であります。このため、インターネット等各種のメディアを活用した真に役立つ統計情報の提供に努めてまいりたいと考えております。

統計業務が円滑に行われるよう、今後とも皆様方のより一層のご協力をお願い申し上げます。

皆様方の一層のご健勝、ご活躍をお祈り申し上げ、新年のあいさつといたします。